

春風秋霜

5月号

令和3年5月6日
島田市教育委員会だより
教育長 濱田和彦

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

1 新年度のスタート1ヵ月にあたって

新年度がスタートして1ヵ月が経ち、担任の皆様は学級づくりがほぼ軌道に乗ったころだと思います。「内外教育」の3月26日号に、不登校の子供が通う塾の先生の言葉として、「教師は、意外と子供の話を聞いていない。子供の心の声を聞くことが最も大切だ。」と書かれていました。

私は、20代後半に教育研究所（当時は三島市）の研究に協力し、休み時間の教師と子供の会話をすべて録音したことがあります。その時、気付いたことは、特定の子供とはよく話しているものの、ほとんど話をしない子供が意外と多いということです。休み時間には多くの子供が教卓の周りに集まっていたので、自分では多くの子供と話をしていると思っていましたが、積極的な子供は教師の周りに集まるものの、その輪に加わることのできない子供も多いことが分かりました。

会話の輪に加わることのできない子供とは意図的に会話をしないと、子供との信頼関係を築くことができません。新しいクラスになって一定の期間が経った今、どの子との会話が少ないかを確認していただきたいと思います。

2 授業の充実に向けて

週日課も決まり、学校生活は規則正しく進められていると思います。文部科学省は「個別最適な学び」や「協働的な学び」を求めています。島田市がこれまで進めてきた「個に焦点を当てた授業」と重なるところは多いと思いますが、一人一端末が整備され、授業も変わってきたと思います。

端末や提示装置があることにより、子供たちの考えていることの把握が容易になります。これまで、授業に受け身だった子供に対しても、自分の考えや態度を明確にしなくてはならない場面を意図的に作れます。端末を使う利点を生かした授業をお願いします。

3 社会教育委員報告書「家庭教育の在り方」について

教育委員会が諮問した「家庭教育の在り方」について、報告書がまとまりました。この報告書は平成28年度から協議を開始し、5年をかけてまとめられました。

特徴は、乳幼児期から高校生までも6ステージに分けて提案していることと、語り掛ける文体のため、大変読みやすいということです。

小学校低学年では集団のルールを守ることを大切に、ご近所さんと触れ合う時間を大切にすることが述べられ、小学校高学年では相手の気持ちを考える体験の必要性や地域社会への興味を育てること提案しています。中学校では自分の言動に責任を持たせることや、ニュースや新聞に取り上げられた話題を話し合うことを求めています。

この報告書に記載されたコラム欄も面白く、学校教育でも参考になるものが多いと思います。家庭への働きかけをする時に、参考にさせていただきたいと思います。

3 附属島田中学校との連携について

附属島田中学校の杉本容康校長（元島一中校長）から、島田市と附属島田中の連携について話がありました。附属中の将来的な存続は、島田市との交流・連携の充実にかかっているとのことでした。私は、附属中の存続は島田市にとっても、島田市の教育のためにも大切なことだと考えています。

教科研修における実践には参考になる部分が多く、これからも様々な提案がされると思います。その上、島田市と静岡大学教育学部は、「相互連携に関する協定書」を交わし、いつでも連携ができる体制ができています。

今後、授業改革を附属中と連携して取り組むことも可能ですし、ICTなどの教育機器を使った授業では多くの実践を積んでいるので、大いに利用すべきです。効果的な実践の発信もお願いしてあります。

また、校内研修や市教研の講師として附属中の教員を活用することもできます。それだけでなく、静岡大学の教授の活用も可能です。こんな講師が必要と申し込めば斡旋してもらえます。附属中や静岡大学の積極的な活用の検討を願います。

4 新型コロナウイルス感染症対策について

4月28日（水）に行われた静岡県都市教育長協議会において、コロナ対策について意見交換が行われました。ある市の教育長は「変異株であってもマスクをしっかりしていれば感染リスクが下がる」「学校における共有部分の消毒には限界があるので、手指消毒を丁寧にする方が効果的だ。」と話していました。

変異株のクラスターを経験し、鼻を出したマスク着用者にリスクが高かまることや慣れによる注意不足も心配されるとも話していました。これらの話を参考にし、換気を含め、基本的な感染対策を徹底してほしいと思います。

肘かけ椅子

中野 和志 教育部長

「置かれた場所で咲きなさい」

新年度が始まってもう5月になります。今更ですが、年度替わりのこの時期は、渡辺和子さんのこの本の言葉を思い出します。数年前にベストセラーになった本なので皆さんも耳にしたことがあるでしょう。

「今自分がいる場所が今の自分の居場所であって、環境や他人に振り回されるのではなく、自分から環境をより良くするために努力しましょう」人生を前向きに捉えていこうという内容の本です。もちろん賛否両論はあります。

人生には思うようにいかないことが多々あります。何で自分ばかり？何でこんな事になるのか？今のコロナ禍の先の見えない状況もまさにそうです。そんな時こそ、与えられた環境に目を向けて、不平不満を言うのではなく、与えられている環境に感謝し咲く努力をすることが大切だということです。綺麗事だと言ってしまえばそれまでですが、物事をポジティブに考えていくことはとても大事なことです。

この本の表紙にはタンポポが淡い色で描かれていて、修道者であった著者の優しさが伝わってきます。デザインをした人が島田市出身の装幀家であることをつい最近知りました。機会があったら手にしてください。心が軽くなるかもしれません。